

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

**RADIO COMMUNICATION SYSTEM**

Patent Number: JP63028145  
Publication date: 1988-02-05  
Inventor(s): ADACHI FUMIYUKI; others: 03  
Applicant(s):: NIPPON TELEGR & TELEPH CORP  
Requested Patent: ☐ JP63028145  
Application Number: JP19860172487 19860721  
Priority Number(s):  
IPC Classification: H04L1/00 ; H04L1/02  
EC Classification:  
Equivalents: JP1962096C, JP6085512B

---

**Abstract**

---

**PURPOSE:**To attain communication under the same zone radius, and transmission power for all of the service, by transmitting the signals of service whose requested transmission quality are different, by the same transmitter and with the same transmission power, and applying different improving processing of a transmission characteristic corresponding to the transmission quality.

**CONSTITUTION:**A transmission signal is received by an antenna 8, and after it is demodulated and decoded to a baseband signal at a receiver 9, it is inputted to a signal processing circuit 11. The signal processing circuit 11 is provided by every audio signal, facsimile signal, and data signal, respectively, and after a time diversity processing is applied on each demodulation decoded signal, an error correction encoding processing is applied, and the audio signal is outputted from an audio signal output terminal 12, the facsimile signal, from a facsimile signal output terminal 13, and the data signal, from a data signal output terminal 14. In this case, the time diversity with correction codes having different correcting capability, and having different number of branches are performed on every audio signal, facsimile signal, and data signal. In this way, the higher the requested transmission quality, the more increased is the error correcting capability of the error correction code, and is increased the number of the branches of the time diversity.

---

Data supplied from the esp@cenet database - 12

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭63-28145

⑬ Int. Cl.

H 04 L

1/00

1/02

識別記号

庁内整理番号

E-8732-5K

7251-5K

⑭ 公開 昭和63年(1988)2月5日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 無線通信方式

⑯ 特 願 昭61-172487

⑰ 出 願 昭61(1986)7月21日

⑱ 発 明 者 安 達 文 幸 神奈川県横須賀市武1丁目2356番地 日本電信電話株式会社通信網第二研究所内

⑲ 発 明 者 秦 正 治 神奈川県横須賀市武1丁目2356番地 日本電信電話株式会社通信網第二研究所内

⑳ 発 明 者 中 嶋 信 生 神奈川県横須賀市武1丁目2356番地 日本電信電話株式会社通信網第二研究所内

㉑ 発 明 者 平 出 賢 吉 神奈川県横須賀市武1丁目2356番地 日本電信電話株式会社通信網第二研究所内

㉒ 出 願 人 日本電信電話株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号

㉓ 代 理 人 弁理士 草 野 卓

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

無線通信方式

## 2. 特許請求の範囲

(1) 要求される伝送品質を異にする複数のサービスを無線通信により提供する方式であって、

上記各サービスに対し同一送信機により同一送信電力で無線通信を行い、

上記サービスの要求される伝送品質に応じてその要求が厳しい程、大きい改善効果が得られる伝送特性改善処理をそのサービス信号に対して施すことを特徴とする無線通信方式。

## 3. 発明の詳細な説明

## 「産業上の利用分野」

この発明は複数サービスを提供する無線通信方式、特に移動通信方式に適する無線通信方式に関する。

## 「従来の技術」

移動通信において複数サービス(例えば音声、ファクシミリやデータ通信等)を提供しようとする

場合、それらに要求される伝送品質(たとえばビット誤り率)が異なることが想定される。

移動通信では通常サービス領域の中心に固定通信網と接続されている無線基地局を設置し、そのサービス領域内を自由に移動する移動局はその無線基地局を介して固定通信網と接続される。移動局が通信できる範囲(ゾーン半径と呼ぶ)は、通信に要求される伝送品質と基地局/移動局の送信電力によって決まる。

一般には、ファクシミリやデータ通信では音声通信より厳しい伝送品質が要求されるため、音声通信に対して送信電力を設定したシステムにおいて同一の送信機、受信機を用いてファクシミリやデータ通信のサービスを受けようとする、サービス領域の中心付近を除いてファクシミリやデータ通信のサービスを利用者が受けることが出来ない。そのため、音声通信が可能な全領域でファクシミリやデータ通信を品質良く行うためには、ファクシミリやデータ通信時には送信電力を大きくしなければならないことになる。

サービスごとに送信電力を制御することは比較的面倒になり、また送信電力を大にすると同一周波数を使用する無線通信システムの距離を離すことになり、従つて周波数利用率が悪くなる。特に移動無線では同一周波数を用いるサービス領域の距離を離す必要があり周波数の有効利用が悪くなる。

この発明の目的は伝送品質を具にする複数のサービスの提供を同一の地域において同一送信機により同一送信電力で可能とする無線通信方式を提供することにある。

#### 「問題点を解決するための手段」

この発明によれば同一送信機により同一送信電力で、要求される伝送品質が異なるサービスの信号を送信し、そのサービスの信号をその要求される伝送品質に応じて異なる伝送特性改善処理を施し、この場合要求される伝送品質が厳しい程、大きい改善効果が得られるようにする。

このようにして全てのサービスに対して例えば同一のゾーン半径及び送信電力のもとで通信がで

11内の音声信号、ファクシミリ信号、データ信号と対応した回路の何れかに切替え接続される。信号処理回路11には音声信号出力端子12、ファクシミリ信号出力端子13、データ信号出力端子14が接続されている。

音声信号入力端子1には符号化された音声信号が入力される。その符号化音声信号は誤り訂正符号化回路4aによりチェックビットが付加された後、時間ダイバーシチ回路4dにより同一信号が複数回時間を隔てて送出される(時間ダイバーシチの動作については特願昭56-191814を参照)。ファクシミリ信号、データ信号に関しても同様にそれぞれ誤り訂正符号化回路4b、4c、時間ダイバーシチ回路4e、4fを通り、スイッチ5に入力される。スイッチ5は音声信号、ファクシミリ信号、データ信号のうちいずれか一つを選択して送信機6へ供給し、その信号は送信機6で搬送波を変調して送信アンテナ7より送信される。

その送信信号はアンテナ8で受信され、受信機9でベースバンド信号に復調復号された後、信号

きる。

#### 「実施例」

第1図はこの発明の実施例を説明するための移動通信システムの例を示す。音声信号入力端子1、ファクシミリ信号入力端子2、データ信号入力端子3はそれぞれ伝送特性改善のための信号処理回路4を介してスイッチ5と接続される。この実施例では伝送特性改善技術として誤り訂正符号化及び時間ダイバーシチを用いる場合であつて、信号入力端子1、2、3はそれぞれ信号処理回路4内の誤り訂正符号化回路4a、4b、4cにそれぞれ接続され、誤り訂正符号化回路4a、4b、4cの出力側は時間ダイバーシチ回路4d、4e、4fにそれぞれ接続され、これら時間ダイバーシチ回路4d、4e、4fはスイッチ5を介して送信機6に切替え接続される。送信機6の送信信号は送信アンテナ7より電波として送信される。

その電波は受信アンテナ8にて受信されて受信機9へ供給される。受信機9の出力側はスイッチ10を介して伝送特性改善のための信号処理回路

処理回路11に入力される。信号処理回路11は信号処理回路4の各処理の逆を行う回路であつて音声信号、ファクシミリ信号、データ信号ごとにそれぞれ設けられ、それぞれ復調復号信号に対して時間ダイバーシチ処理の後、誤り訂正符号化処理が行われ、音声信号は音声信号出力端子12に、ファクシミリ信号はファクシミリ信号出力端子13に、データ信号はデータ信号出力端子14より出力される。

この場合、この発明では音声信号、ファクシミリ信号、データ信号ごとに訂正能力の異なる訂正符号及びプランチ数の異なる時間ダイバーシチを行い、つまり要求される伝送品質が高い程、誤り訂正符号の訂正能力を高め、時間ダイバーシチのプランチ数を増加する。例えば音声信号よりもファクシミリ信号の方を誤り訂正符号の訂正能力を高めかつ時間ダイバーシチのプランチ数を増加する。

このようにして異なる伝送品質を要求する複数のサービスを同一の送信電力、同一のゾーン半径

のもとして提供することが出来る。

なお伝送品質の要求に応じて誤り訂正符号の訂正能力のみ又は時間ダイバースチのプランチ数のみを異ならしてもよい。

#### 「発明の効果」

次にこの発明の効果を具体例について示す。音声信号として3 kHzのアナログ信号をAPC-AB(適応予割-適応ビット割当)符号化した信号を、ファクシミリ信号としてG3の4.8 kb/sの信号を、データ信号として2.4 kb/sの信号を考え、これらに対する要求伝送品質をそれぞれ $10^{-2}$ 、 $10^{-4}$ 、 $10^{-5}$ と仮定する。フェージング対策として2プランチ空間ダイバースチ(2SD)を用いると、音声信号については基地局/移動局の送信電力が15W/3Wのとき、1.5 GHz帯でゾーン半径が3 km、サービス領域に対する周波数割当てを9種類の周波数の組を繰返して実現される、しかしファクシミリ信号の場合は、送信電力を同一とすればゾーン半径1.4 kmでサービス領域に対する周波数割当てを36種類の周波数の組を繰返して実現されることになる。

時間ダイバースチ回路4a, 4bの何れかへ供給して復号した。

40 Hzのレイリーフェージングの存在下における2プランチ空間ダイバースチのみを用いた場合(2SD)、2プランチ空間ダイバースチと2プランチ時間ダイバースチと誤り訂正符号とを用いた場合(2SD-2TD-FEC)、2プランチ空間ダイバースチと4プランチ時間ダイバースチと誤り訂正符号とを用いた場合(2SD-4TD-FEC)のそれぞれの受信CNR(中央値)に対する平均ビット誤り率の実験測定結果を第3図に示す。

この第3図より受信CNRが10 dB附近で、音声信号は2SDによって平均ビット誤り率 $10^{-2}$ が得られ、ファクシミリ信号は2SD-2TD-FECで平均ビット誤り率 $10^{-4}$ が得られ、データ信号は2SD-4TD-FECで平均ビット誤り率 $10^{-5}$ が得られる。つまり音声信号、ファクシミリ信号、データ信号について第2図に示すような伝送特性改善処理をそれぞれ行えば同一送信電力で、それぞれ要求される伝送品質が得られる。前記移動無線に適用する

そこで第2図に示すように、入力端子1よりの音声信号はAPC-AB符号化回路15で符号化されると共にビット選別誤り訂正符号化(BSFEC)され、その符号化音声信号は16 kb/sでスイッチ5へ出力される。ファクシミリ信号は誤り訂正符号化回路4bで誤り訂正符号化した後、時間ダイバースチ回路4aで2プランチの時間ダイバースチ(2TD)を行って16 kb/sでスイッチ5へ供給した。つまり時間ダイバースチは2プランチであるから、その1プランチでは8 kb/sが出力され、その3(8-4.8) kb/sが誤り訂正ビットに用いられる。端子3のデータ信号は誤り訂正符号化回路4cで誤り訂正符号化した後、時間ダイバースチ回路4bで4プランチの時間ダイバースチ(4TD)を行ってスイッチ5へ16 kb/sで供給した。送受信機21でGMSK(BbT=0.25)変調して送信した。つまり無線区間での伝送速度を16 kb/sとした。受信は2プランチ空間ダイバースチアンテナ22で受信し、送受信機21で周波数検波2ビット積分検出方式で復調し、スイッチ5を通じて符号化回路15、

と、ゾーン半径が3 km、サービス領域に対する周波数割当てを9種類の周波数の組を繰返すことで音声信号のみならず、ファクシミリ信号、データ信号の何れのサービスの提供も行いことができる。

以上説明したように、この発明によれば同一送信機、同一送信電力で例えば音声通信が可能な地点でもファクシミリやデータ通信サービスが可能となり、利用者はサービスの違いを意識せずに複数サービスを受けることが出来る。この発明は移動通信のみならず一般の無線通信にも適用できる。

#### 4.図面の簡単な説明

第1図はこの発明を適用した無線通信方式を示すブロック図、第2図はこの発明を適用した実験システムの例を示すブロック図、第3図は各図の実験システムについての平均ビット誤り率-受信CNRの関係の実験結果を示す図である。

特許出願人 日本電信電話株式会社

代理人 耳 野 卓

図 1

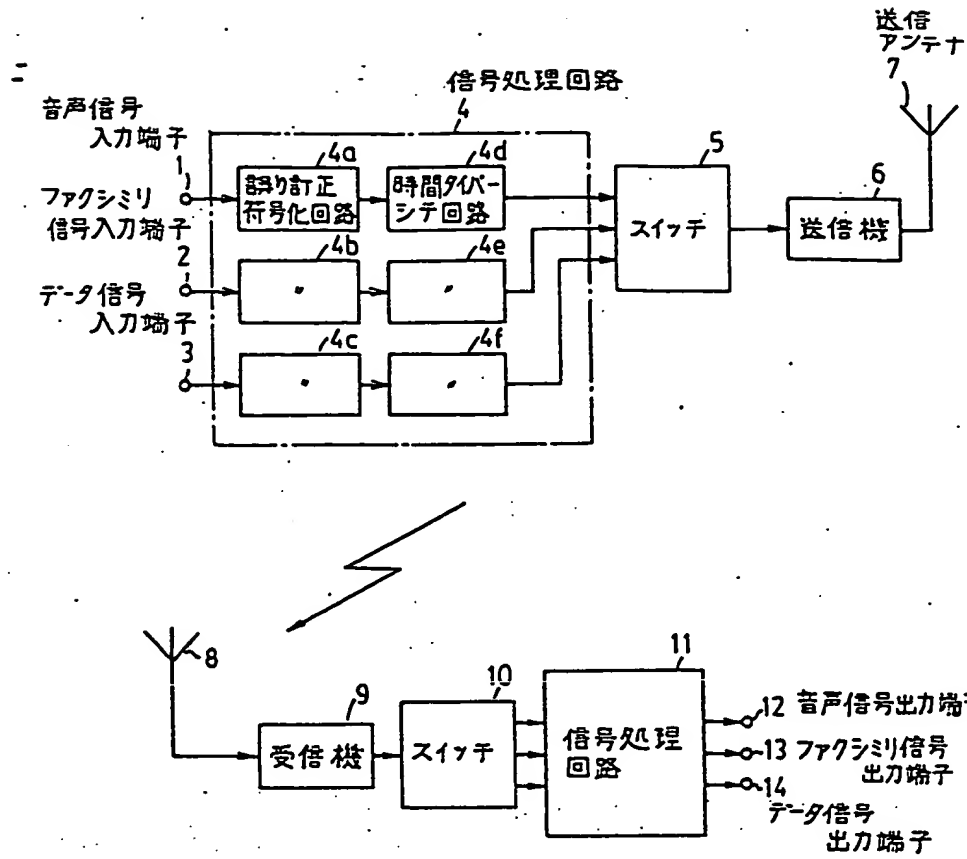


図 2

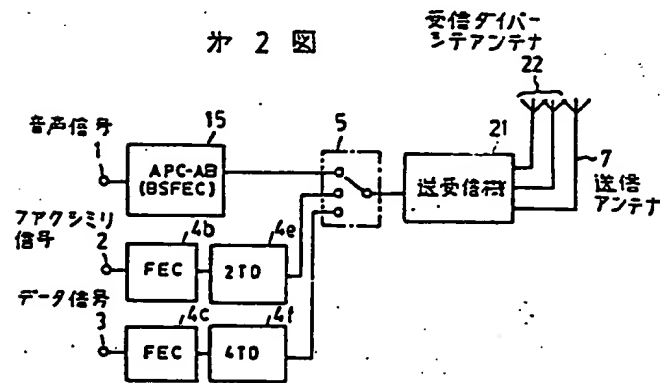


図 3

